

令和6年度 第1回認知症初期集中支援チーム検討委員会議事録

- 1 開催日 令和6年7月8日(月)午後2時45分～3時5分
- 2 開催場所 市役所本庁舎401会議室
- 3 出席者
〈委員〉 野澤委員、矢野委員、深原委員、稲田委員、永野委員、宮城委員、
荻浦委員、森委員、阿部委員、紺谷委員、松浦委員、新谷委員
〈ワーキング部会長〉
松岡部会長(情報共有ワーキング部会)
野村部会長(在宅支援ワーキング部会)
〈事務局〉 福祉保健部 山口次長、小見政策調整監、介護保険課 菓子課長
保険年金課 藤井課長、酒井主査、射水市民病院 柏嶋看護部長
地域福祉課 村中課長、長谷川地域共生推進班長、種村課長補佐、
田中主査、島倉主査、黒田主事
- 4 欠席者 なし
- 5 議題(事務局説明項目)
 - (1) 射水市認知症総合支援事業実績及び計画(案) (資料1)
 - (2) 認知症対応の状況 (資料2)
 - (3) 認知症になっても希望を持って過ごせる射水市へ (資料3)
 - (4) 「射水市認知症施策推進計画」の策定準備について (資料4)
- 6 質疑応答内容 なし

令和6年度 第1回射水市認知症初期集中支援チーム検討委員会 次第

日時 令和6年7月8日(月)

午後2時30分～3時

会場 市役所本庁舎 4階 会議室 401

1 開会

2 議題

(1) 射水市認知症総合支援事業実績及び計画(案) (資料1)

(2) 認知症対応の状況 (資料2)

(3) 認知症になっても希望を持って過ごせる射水市へ (資料3)

(4) 「射水市認知症施策推進計画」の策定準備について (資料4)

3 閉会

射水市認知症総合支援事業 令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画(案)

認知症施策推進大綱5つの柱		令和5年度 市全体での事業実績	令和6年度 事業計画(案)
1	普及啓発・本人発信支援	ア) 認知症サポーター養成講座 980人受講 ・「認知症の人にやさしいお店」登録制度(登録109事業所) ・認知症サポーターが身につける「オレンジちゃん缶バッジ」の普及 ・個人向け認知症サポーター養成講座の実施(6/1・10/17 午前・午後 計4回) ・市職員向け認知症サポーター養成講座の実施(7/12) イ) 世界アルツハイマーデーの機会を捉えた普及・啓発イベント ・企画展示と啓発(9/8~9/21射水市中央図書館、9/14~9/28新湊図書館、9/1~9/12クロスベイ新湊、9/22~9/29アル・プラザ小杉) ・認知症にやさしい地域づくりキャンペーン(9/21フューチャーシティファボーレ) ・県主催の普及啓発事業への協力・市の取組を紹介 ウ) 広報等による普及啓発 ・広報いみず 5・9月号特集記事及び隔月コラム記事掲載 ・ケーブルテレビ「認知症オレンジちゃんねる」(隔月放送) ・認知症の初期症状と対応方法について寸劇等で啓発 【新規】 エ) 民間企業との認知症普及啓発活動 ・5/20 アルビスイータウン大島店にて、女子ハンドボールチーム・アランマーレ富山(※)の選手と認知症啓発ティッシュ等の配布(配布数:626個)、認知症に関する展示・脳トレ体験・個別相談の実施 ・ケーブルテレビ10月放送「認知症オレンジちゃんねる」にアランマーレ富山の選手の出演 ・アルツハイマー月間(9月)の認知症啓発活動についてアランマーレ富山からSNSで発信(※射水市に拠点を置いており、チームカラー「オレンジ色」は、認知症を支えるシンボルカラーでもある。運営の株式会社プレステージ・インターナショナルは、射水市との包括的連携協定を締結。)	ア) 認知症サポーター養成講座 ・「認知症の人にやさしいお店」登録制度 ・認知症サポーターが身につける「オレンジちゃん缶バッジ」の普及 ・事業所向け認知症サポーター養成講座の実施 ・個人向け認知症サポーター養成講座の実施 イ) 世界アルツハイマーデーの機会を捉えた普及・啓発イベント ・図書館等での展示と啓発 ・県主催の普及啓発事業への協力 ウ) 広報等による普及啓発 ・広報いみず 5・9月号特集記事及び隔月コラム記事掲載 ・ケーブルテレビ「認知症オレンジちゃんねる」(隔月放送) ・認知症総合支援事業について寸劇等で啓発 エ) 民間企業との認知症普及啓発活動 ・アランマーレ富山(株式会社プレステージ・インターナショナル)と認知症地域支援推進による活動 ・認知症に関する展示・認知症啓発ティッシュ等の配布・「認知症オレンジちゃんねる」への出演・アランマーレ富山からSNSで発信
	(1) 認知症に関する理解促進		
	(2) 相談先の周知	ア) 「認知症ケアパス」の作成・配布 イ) 市ホームページの内容更新	ア) 「認知症ケアパス」第6版の配布 イ) 市ホームページの内容拡充
	(3) 認知症の本人からの発信支援	ア) 認知症カフェでのピアサポート活動の実施支援 イ) 認知症の人と家族が集う場「なごもっと」(認知症の人と家族への一体的支援事業)の開催(11回) 認知症の本人 延18人、家族 延17人、ささえ隊メイト 延54人	ア) 認知症カフェでのピアサポート活動の実施支援 【拡充】 イ) 認知症の人と家族が集う場「なごもっと」(認知症の人と家族への一体的支援事業)の開催(12回) ・地域包括支援センター圏域毎に開催(救急薬品市民交流プラザ以外) ・「認知症の人にやさしいお店」登録制度との連携
2	予防	(1) 認知症予防に資する可能性のある活動の推進	ア) 脳いきいき健康講座 17回 延285人 イ) きららか射水100歳体操等高齢者の集いの場の拡充
3	医療・ケア・介護サービス・介護者への支援	(1) 早期発見・早期対応、医療体制の整備	ア) 認知機能検診(4/1~3/31)、検診後の事後支援 イ) 認知症初期集中支援チーム ・個別支援 ・全体会議 ウ) もの忘れ・認知症相談会 11回 延4人 エ) 運転免許更新高齢者講習時に認知機能検診の案内チラシ配布
		(2) 医療従事者等の認知症対応力向上の促進	県で実施
		(3) 介護従事者の認知症対応力向上の促進	射水市医師会Webセミナー「認知症初期集中支援事業」(9/28 32人) 演題「軽度認知障害と認知症予防について」 講師:株式会社MCBI 取締役会長 内田和彦 氏
		(4) 認知症の人の介護者の負担軽減の推進	認知症カフェの開催(2会場)
4	認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援	(1) 「認知症バリアフリー」の推進	ア) みまもりあい事業の実施 ・登録者数41人 アプリダウンロード者数3,633人(年度末) 【新規】 イ) 認知症高齢者等個人賠償責任保険事業の実施 対象者:みまもりあい事業登録者のうち、要件に該当する加入希望者 補償内容:補償額の上限 個人賠償1億円 加入者数25人(年度末) ウ) ひとこと声かけ体験会~安心して外歩きを楽しもう~の実施 6回 延175人 エ) ささえ隊メイト活動支援 登録者178人(年度末) ・ささえ隊メイトの養成・研修 認知症サポーターステップアップ講座の実施(11/17 17人) ささえ隊メイト研修会(傾聴)(8/2 52人) 認知症ささえ隊メイトが身につける「認知症ささえ隊メイト缶バッジ」の普及 ・包括圏域ごとのささえ隊メイト交流会の開催(各包括圏域ごと) ・地域の集いの場での認知症ミニ講座の実施 12回 延207人 ・ささえ隊メイトだよりの発行 オ) 成年後見制度の利用促進 ・成年後見制度利用相談会(毎月第4水曜) 12回 延19人
		(2) 若年性認知症の人への支援	若年性認知症相談・支援センターとの連携強化(連絡会への参加)
5	研究開発・産業促進・国際展開		

Ⅰ 認知症に関する相談対応の状況

(1) 認知症に関する住民相談

	R3年度		R4年度		R5年度	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
新湊西包括	49	379	46	510	55	666
新湊東包括	45	332	66	467	58	506
小杉・下包括	97	361	82	492	85	356
小杉南包括	52	377	32	412	62	467
大門・大島包括	91	307	92	407	92	457
計	334	1,756	318	2,288	352	2,452



住民相談の内容により、困難な事例は包括支援センターと市地域福祉課で支援方針を検討

(2) 困難事例等の検討

	R3年度		R4年度		R5年度	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
対応件数	35	46	45	55	40	46



医療や介護につながらない方や中断している方、認知症の行動心理症状(BPSD)が顕著で対応に苦慮している方等は認知症初期集中支援チームでの対応を検討

(3) 認知症初期集中支援チーム対応状況

	R3年度	R4年度	R5年度
対応件数	5	2	2

R5年度対応者の状況

・年齢、性別の内訳

	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳以上	計
男性					1	1
女性				1		1
計	0	0	0	1	1	2

・相談者(延数)

内訳	件数
本人	0
家族・親族	0
警察	0
地域包括支援センター	2
介護保険事業所	1
地域住民	0
計	3

・相談内容(延数)

内訳	件数
認知症疾患の臨床診断を受けていない	1
継続的な医療サービスを受けていない	1
適切な介護サービスを受けていない又は中断	1
BPSDが顕著なため対応に苦慮している	0
計	3

・チーム員支援状況(延数)当該年度分のみ

内訳		回数
市・包括	訪問・面談	5
	親族との相談	4
サポート医	チーム員会議	2
	サポート医へ対応相談	2
	サポート医の訪問・往診	0
対応	支援終了	2
	継続中	0

2 情報共有ツールを使用した多職種連携

(1) 認知症共有ツール・多職種連携票の使用

	R3年度	R4年度	R5年度
使用件数	34	51	72

相談機関(地域包括支援センター)より、医療機関へ情報共有ツール(認知症情報共有ツール・多職種連携票等)を使用し、認知症の人が医療機関を受診する際に、生活状況や困り事を相談する。医療機関からは、相談機関へ在宅生活における助言を行う。

(2) 射水市多職種連携支援システム(ICT:情報通信技術)を活用した連携

	R3年度	R4年度	R5年度
認知症の人の新規連携者数	7	10	10

射水市多職種連携支援システム(ICT)を活用し、医療機関及び介護保険サービス事業所等が、認知症の人や家族の生活状況や思い、支援状況の書き込みを行う。

緊密な連携により認知症の人や家族の思いに寄り添い、円滑な支援が可能となっている。

3 認知機能検診受診結果及び事後支援状況

(1) 認知機能検診受診結果

(人)

年度	検査内容	検査結果				小計	合計
R3年度	認知機能テストのみ	異常なし		認知症疑い		26	58
		20		6			
	認知機能テスト・MCIスクリーニング検査	健常	MCIリスク低	MCIリスク中	MCIリスク高	32	
		21	4	4	3		
R4年度	認知機能テストのみ	異常なし		認知症疑い		23	47
		14		9			
	認知機能テスト・MCIスクリーニング検査プラス	健常	MCIリスク低	MCIリスク中	MCIリスク高	24	
		3	6	5	10		
R5年度	認知機能テストのみ	異常なし		認知症疑い		23	40
		20		3			
	認知機能テスト・MCIスクリーニング検査プラス	健常	MCIリスク低	MCIリスク中	MCIリスク高	17	
		3	10	0	4		

認知機能テストの結果、MCIの疑いがある方へMCIスクリーニング検査(血液検査)を実施
令和4年度から、MCIスクリーニング検査プラスへ変更

カテゴリー リスクレベル	栄養群			脂質代謝群			炎症・免疫群			凝固線溶群		
	良好	注意	要注意	良好	注意	要注意	良好	注意	要注意	良好	注意	要注意
健常	3	0	0	3	0	0	1	2	0	2	1	0
MCIリスク低	5	5	0	10	0	0	3	6	1	9	1	0
MCリスク中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MCIリスク高	2	1	1	1	3	0	0	3	1	0	4	0
合計	10	6	1	14	3	0	4	11	2	11	6	0

(2) 地域包括支援センターによる事後支援

対象 ①認知症疑い ②認知機能テスト・MCIスクリーニング検査受診者

「(1)認知機能検診受診結果」の内、網掛け部分 対象

	R3年度	R4年度	R5年度
事後支援件数	38	33	20

内容 訪問・電話・来所により、受診状況の確認、生活上の困り事がないかを聞き取り、生活支援・助言、受診調整、要介護認定等のケアマネジメントを行う。

効果 認知症・MCIが疑われる段階からの専門職による早期介入により、適切な診断、継続的な受診、適切な介護サービスへの結び付けが可能となっている。

また、受診者や家族にとっては相談先が明確となり、円滑に相談をすることができる。

結果		①認知症疑い	②認知機能テスト・MCIスクリーニング検査受診者	計
	生活支援・助言等	2	13	15
	要介護認定等ケアマネジメント	1	4	5
(再掲)	事業対象	0	1	1
	要介護1~4	1	3	4

4 認知症初期集中支援チーム員全体会議の開催

	日時	方法・場所	出席者	内容
第1回	令和5年8月2日 (水) 19時15分~20時 45分	集合・射水市役所 3階 304会議室	チーム員 医師、認知症地域支援推進員	(1) 令和4年度射水市認知症初期集中支援チーム・認知機能検診実績について (2) 令和5年度射水市認知症初期集中支援事業 研修会について
第2回	令和6年2月27日 (火) 19時15分~20時 30分	集合・射水市役所 2階 201会議室	チーム員 医師、認知症地域支援推進員	(1) 令和5年度射水市認知症初期集中支援チーム・認知機能検診等実績について (2) 認知機能検診問診票の様式、周知方法等について

「人生100年」とも言われる時代。認知症の症状と向き合いながら暮らす時期が誰にでも訪れる可能性があります。「自分らしい生活」をできる限り続けられるよう、自分が認知症になった時、こんなまちで暮らしたいという声を集めました。

認知症になっても…

外出したい！

誰かと話
したい！



自分のできる
ことを続けたい！

生活を楽しま
たい！

安心して出かけることができる 出かける場所がある

できないことがあった時に ちょっとした生活の支援がある

心配なことを 相談できる

困ったら助け合える環境

「認知症の人にやさしい
お店」登録事業
・周囲のやさしい声かけの支援
・わかりやすい表示

みまもりあい事業

高齢者でも外出できる
公共交通機関の仕組み

お金を持たずに買い物でき
る仕組み（わかりやすい
キャッシュレス支払等）

歩いていける所に 皆が集う場所

地域支え合いネットワーク
事業、100歳体操 集いの場
身近な場所に認知症カフェ
認知症の人と家族が集う場
「なごもっと」

なじみの関係の継続
若い人や子どもと交流
認知症の人が役割や仕事を
持てる場

ちょっとした支援

地域のみまもり活動

ケアネット活動
認知症サポーター
ささえ隊メイト

（話し相手
ゴミ出し支援等）

生活を支援する
ロボット機器

外出サポート

一緒に散歩できる仲間

趣味活動継続の支援

認知症サポーター
ささえ隊メイトの力

訪問販売車や送迎車

ひと休みできるベンチの
設置

相談できるところ

もの忘れ・認知症相談会
地域包括支援センター
（認知症地域支援推進員）

ケアマネジャー
介護保険サービス事業所

かかりつけ医
認知症サポート医

相談専用ダイヤルやサイト

銀行

商店・スーパー

図書館

カフェ

公民館

社会福祉協議会

認知症サポーター

医療機関

介護保険サービス
事業所

地域包括支援
センター

行政

- ・認知症の人や家族の視点に立ち、関係機関と連絡調整を行いながら、認知症に関する施策を推進します。
- ・認知症の理解を深めるため、広く普及啓発を行います。

地域（事業所・市民）

- ・認知症について自分ごととして理解を深め、困っている人がいる時にはやさしい声かけを行いましょう。
- ・認知症の人や家族が参加しやすい場づくりを行いましょう。

地域包括支援センター ・ケアマネジャー

- ・認知症に関する相談に応じます。
- ・ひとりひとりの生活に合わせた支援を本人や家族と共に考えます。

本人・家族

- ・認知症になってもできることを実施し、周囲とつながりを持ちながら生活しましょう。
- ・困った時は、いつでも周囲に相談しましょう。

令和6年度事業計画

どこシルプラス事業を実施（みまもりあい事業からの移行）

射水市では、認知症の人を地域で見守り、行方不明になった高齢者等をより早く発見・保護できるよう、「みまもりあい事業」を実施していましたが、令和6年10月より、QRコードを使用したシールを利用する「どこシルプラス事業」に移行します。

「どこシルプラス事業」では、QRコードのシールを利用するWebシステム「どこシル伝言板」に「射水市LINE公式アカウント」での行方不明情報の配信を**プラス**し、検索協力の輪を広げます。また、富山県内の他市町村では、このQRコードのシールの利用が拡大しており、共通のサービスを利用することで、どの市町村に行っても発見者が同じ対応ができることで、早期発見につながります。

【対象者】射水市に住所があり、認知症により行方不明になる可能性のある在宅の方

【費用】無料（シール代3,619円は市が負担）

【申請方法】利用申請書を射水市地域福祉課へ提出

認知症の人と家族への一体的支援事業 「なごもっと」を各包括圏域で実施

認知症の人と家族が安心して集い、出会い、つながり、話して和む場で、その日に集まった人でやりたい事を話し合って実施し、自由に話したり相談することができます。認知症地域支援推進員・ささえ隊メイトも参加し、気軽に相談でき地域とのつながりを継続できます。

令和6年度は、月1回救急薬品市民交流プラザでの実施に加え、地域包括支援センター圏域毎に「なごもっと」を開催します。「なごもっと」がより身近に参加しやすくなることで、認知症の人と家族を支えます。

また、本人の思いを大切に丁寧に聴いていきます。

認知症になっても
安心して出かけられるまちづくり

どこシル伝言板® とは？

大変！おばあちゃんが
いなくなった！

何かお困りの様子…
衣服のQRコードに
アクセスしてみよう

発見

事前に洋服等に
専用のQRコードラベル
を貼付けておく

発見者

伝言板に
アクセス

この画面は保護者と
発見者のみが見
ることができます

自動メール送信

おばあちゃんが
みつかった！

ご家族

24時間 365日
素早く連絡が取れる！

認知症等で行方不明になった際、衣服等に貼ったQRコードが読み取られると、保護者へ**瞬時に発見通知メールが届きます**。発見者はQRコードを読み取ると、**ニックネームや注意すべきことなど対処方法がわかるので安心です**。**チャット形式の伝言板だからやりとりは簡単**。お迎えまで迅速に行えます。

家族が行方不明情報を登録すると、
射水市LINE公式アカウントより行方
不明情報が通知されます。

「どこシル伝言板」
にプラス！

認知症になっても出かけられる場を
増やし支えてくれる人とつながろう



「射水市認知症施策推進計画」の策定準備について

I 計画策定の方針及びスケジュール

(1) 方針

「いみず地域共生プラン(第2次射水市地域福祉計画・第3次射水市地域福祉活動計画)」(令和3～12年度)の中間評価・見直しを令和7年度に実施予定しており、その見直し時期に合わせ、射水市認知症施策推進計画(令和8年度～12年度)を一体的に策定

理念・役割	<p>「射水市認知症施策推進計画」を新規策定 それぞれの役割と取り組むことを記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市 ・関係機関(保健・医療・福祉サービス提供に携わる機関) ・事業者(日常生活や社会生活を営む基盤となるサービスの提供者) ・市民 ・地域組織 等
認知症施策	<p>「射水市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」(令和6～8年度)に、具体的な取組を記載 国が令和元年度に策定した認知症施策推進大綱(対象期間:令和7年まで)の内容を踏まえ、次の4つの項目で取組を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策の方向性 認知症の人本人の考えや視点、家族の意見を取り入れながら施策を進めるなど、認知症への理解促進に取り組むとともに、高齢者虐待防止や成年後見制度の利用促進を図り、権利擁護を推進する ・基本施策「認知症の人と家族への支援の強化」 <ol style="list-style-type: none"> ① 認知症に関する理解促進・本人発信支援 ② 早期発見・早期対応システムの充実 ③ 認知症の人とその家族への支援 ④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援 ・指標 認知症サポーター養成者累計人数 令和8年度 20,000人 認知症ささえ隊メイト養成者累計人数 令和8年度 240人

(2) スケジュール

年度	内容
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人本人や家族から意見を丁寧に聴く (認知症カフェ、なごもっと等の参加者、認知症の人と家族の会等) ・地域福祉計画の中間見直しのためアンケートを実施 (アンケート内容に認知症に関する項目を設定)
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画等策定委員会を開催 (計画策定委員として当事者又は家族が参画)